

次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業

平成31年度予算額 **56.1億円（57.6億円）**

事業の内容

事業目的・概要

- 医療の課題として、患者の方々のQOL(Quality of Life)を向上させるとともに、医療費増加の抑制を図る必要があります。
- こうした背景から、早期に疾病を探知し生存可能性を向上する「先制医療」、及び個人差を踏まえたより効能の高い治療を実現する「個別化医療」の推進に向けて、日本医療研究開発機構を通じた医療基盤の技術開発を行い、医療分野の産業発展に貢献します。
- 具体的には、平成30年度までに「先制医療」として早期診断可能な低侵襲バイオマーカー（マイクロRNA）を開発したところ、「個別化医療」を推進する技術開発として、
 - ①奏効率の低い抗がん剤等に対する患者層別化マーカー探索技術の開発
 - ②抗体医薬品を含むバイオ医薬品の高度創薬・製造技術の開発
 - ③次世代医薬品シーズとして注目される中分子の生合成技術や動態特性に着目した創薬基盤技術の開発
 等を進めていきます。

成果目標

平成28年度から平成35年度までの8年間の事業であり、我が国発の診断技術・創薬基盤技術の実用化を図ります。具体的には、

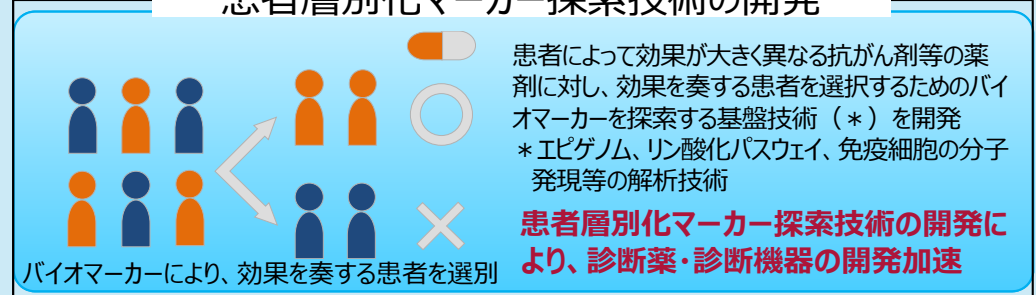
- 平成40年度までに、特定の医薬品の奏効率を向上させる診断薬・診断機器の薬事申請3件
- 平成37年度までに、バイオ医薬品の製造機器等の製品導入実績10件等を目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）

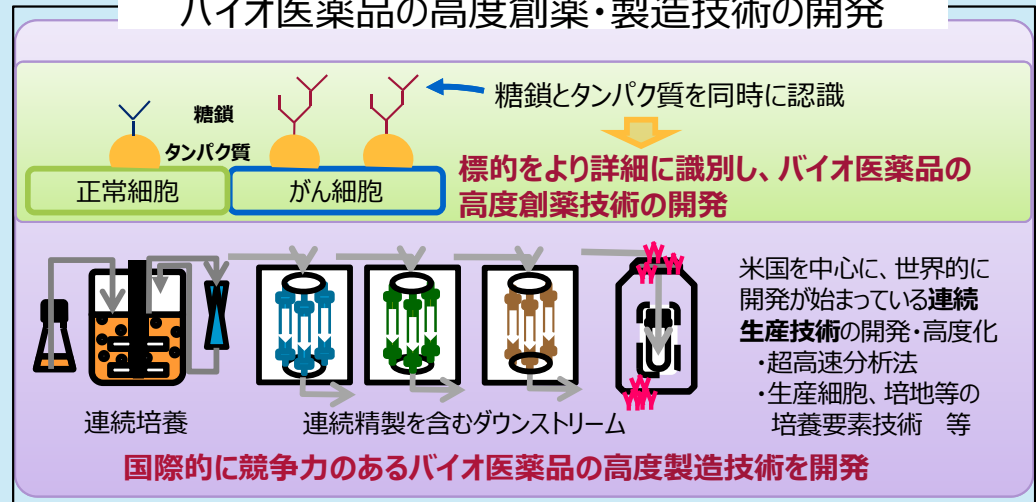


事業イメージ

患者層別化マーカー探索技術の開発



バイオ医薬品の高度創薬・製造技術の開発



革新的中分子創薬技術の開発

